

今年は、病害虫による被害が例年に比べて多くみられたため、葉がダメージを受けています。そのため、平年より早く葉が黄化・落葉することが予想され、「えんれのそら」の成熟期（単作）は、早いところで10月1日頃と見込まれます。

ほ場や地域による熟期のバラツキがあるため、子実水分が22%以下になったほ場から順次刈取りを始め、刈り遅れによる「しわ粒」などの発生防止に努めましょう。

1. 収穫作業

▷収穫開始時期の目安（落葉後5日程度で収穫時期）

- ◎子実水分が22%以下になったほ場
→莢の90%以上が褐色になった頃

※褐色莢の割合と収穫日との関係

褐色莢の割合 (%)	収穫開始までの日数
30%	10日程度
50%	7日程度
70%	4日程度
90%	刈取り開始



10cm 程度

コンバインによる適期収穫および適正な刈取高さ（写真）

▷刈取りのポイント

- ・汚損粒の発生防止のため、刈取り前に青立ち株や大型の雑草を抜き取る。
- ・コンバイン作業は、茎が乾いた時間帯（午前10時～午後4時頃）に行う。
- ・刈取り高さは、土をかき込まないように地際から10cm程度とする。
- ・コンバインの作業速度は0.5m/秒（時速1.8km）程度でゆっくり行う。

2. 乾燥・調製

▷乾燥作業

- ・急激な乾燥は、しわ粒や皮切れ粒の原因となるので、「気温+5℃以内の送風温度」で乾燥する。（毎時乾減率は0.3%以下とする。）
- ・仕上げ水分は14%とする。



皮切れした大豆

3. 次年度の種子について

品種特性の退化や種子伝染病害の発生を抑え、品種本来の形質を保持し、安定的に高品質な大豆生産を行うため、毎年種子更新を行いましょう。

収穫後、速やかにほ場内の大豆残さをすき込みましょう！